

国の稲作農業の発展と水田の保全、併せて、食料の安定供給の維持に資するよう、飼料用米産地の生産者とともに取り組む。

- ・飼料用米産地の生産者や農協からの飼料用米の販売に関する相談を受け、組合員である飼料メーカーに仲介する。また、取引に伴うさまざまなサポートや国(農林水産省)や所在地の都道府県等の行政情報の提供等必要な支援も行う。さらに、日本飼料工業会が自ら行う買付等については、買付の条件、予算等、引き続き検討する。
- ・飼料用米産地との良きパートナーシップを築き、組合員である飼料メーカーの、飼料用米産地との適切な飼料用米取引をバックアップする。具体的には、飼料用米の取引の仲介やサポートに加え、組合員飼料メー

カーと飼料用米生産者や畜産生産者との産地交流会の開催や飼料用米生産者と飼料メーカーとの優れた提携事例の紹介や普及等により、飼料用米生産者や産地との交流を深め、農村地域の発展に貢献していく。

「飼料用米ダイヤル」の設置

(協)日本飼料工業会では「飼料用米ダイヤル」の設置等の体制整備を行い、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者やJA(農業協同組合)、飼料用米を使用したい傘下の飼料メーカー(工場)との仲介を行っていく所存である。

飼料用米ダイヤル

電話：03-3583-8031 (代表)

Fax：03-3583-8020

Eメール：Esamai@jafma.or.jp

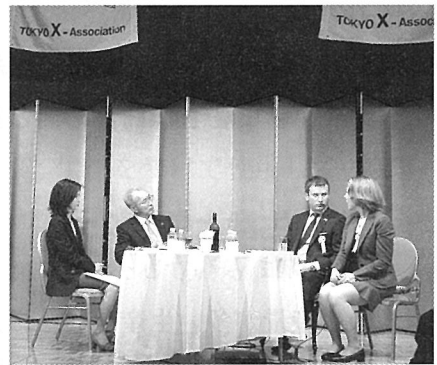
(かとう かずひろ・(協)日本飼料工業会業務部長)

トピックス

TOKYO Xアソシエーション 26年度総会および消費者交流会を開催

東京都畜産試験場(現：東京都農林水産振興財団)が作出したブランド豚肉「TOKYO X」の流通関係者で組織するTOKYO Xアソシエーションは5月21日、東京都港区の東京プリンスホテルで平成26年度総会および消費者交流会を開催した。総会では、独自格付けを検討するための委員会や、5年後までに流通頭数を倍増させる生産拡大委員会の実施などを盛り込んだ事業計画を決めた。消費者交流会には、生協や消費者団体、養豚関係者など約350人が参集し、交流を深めた。

冒頭あいさつに立った植村光一郎会長は「会員、関係者のおかげで創立15周年を迎えることができた。25年度取り扱い頭数は昨年夏の暑熱の影響で9000頭を割り込んだが、今年度は1万頭を目指す。さらに東京オリンピックの前年までに2万頭に増加させたい」



と述べ、生産・流通体制の整備に積極的に取り組んでいくことを強調した。

記念イベントとして、「国宝」として認定されている「マンガリツア豚」の加工・流通を担うハンガリー・ピック社のパラノビチ・ノルバート氏と植村会長により、高品質豚肉のブランド化という共通のテーマにした対談が行われた(写真)。